

大阪府泉佐野市における「子どもの第三の居場所」
コミュニティモデルの運営（最終年度）
2023 年度事業報告書

令和6年4月

NPO法人
麒麟子ども応援団

Ⅰ 事業計画

(1) 事業目的

自分の未来に自信をもって踏みだせる人たちであふれた社会の実現を目的とする。
子どもたちを含めた青少年を対象に、ひとりひとりがそれぞれのペースで過ごせる居場所を作り、自分の可能性を信じて主体的に社会に踏みだせるためのさまざまな学習及び体験の機会を提供する。これによって、青少年が「生きる力」を高め、自分の人生に希望と夢を持って社会に参画できるようになることを目指す。

(2) 目標

【目標】

- ・ 2024年3月31日までに一日平均利用児童数を15名(100名/月)にする
- ・ 毎月20人以上の不登校児童が利用できる場所にする
- ・ ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
- ・ 子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントを事業期間内に定期的を実施する
- ・ 参加者の満足度80%以上(参加者アンケートを実施)

(3) 事業内容

【事業内容】

大阪府泉佐野市における「子ども第三の居場所」(A)コミュニティモデルの運営

- ・ 期間：2023年4月1日～2024年3月31日(週4日10時から19時まで開所)
- ・ 場所：大阪府泉佐野市
- ・ 対象：登録140名(家庭や自身に課題を抱えた小中学生中心)
- ・ 内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。食事を通じた安心した居場所、学習支援を提供し、地域の子どもたちの心の安定を図る。また、不登校の子どもたちに学習支援を実施し自分のペースで学習できる状態にする。

2 事業実績

(1) 利用者実績

不登校支援事業（日中）

小学生	中学生	合計
5	15	20

※出席扱い 20名

こども食堂事業（夕方～）

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学生	高校生	合計
25	12	25	20	25	20	43	35	205

(2) 開催実績

不登校支援事業：平日毎日

こども食堂事業：244日

こども食堂事業（16時～19時）

月	開催回数	こども食堂	食事配布	体験活動	参加者合計
4月	22	16	3	3	319
5月	16	13	1	2	276
6月	19	16	0	3	223
7月	20	16	0	6	261
8月	21	15	0	6	200
9月	22	16	0	8	390
10月	19	16	0	4	246
11月	18	14	0	5	308
12月	24	15	2	7	421
1月	23	13	1	9	306
2月	18	14	0	4	200
3月	22	14	0	9	251
合計	244	178	7	66	3401

(3) 活動内容

①不登校支援事業

- ・小学生～中学生を対象に平日毎日10時～16時まで不登校支援事業を実施。
- ・不登校の子どもを持つ保護者を対象とした「親の会」を6回開催。
- ・行政や学校と協議・連携し、希望のあった20名について出席扱い。
- ・中学3年生であった9名が卒業し、全員が高校進学。
- ・学校、保護者、居場所の3者が連携し、子ども達をサポートする体制を構築。
- ・学校に行っていないことにより、多くの体験機会が失われているため、宿泊体験などさまざまな体験事業を実施。7～9月では不登校の子ども達が運営する「こどもカフェ お福 wapi」を計4回実施し、2月には日本財団主催 こども WEEKEND にて東京出店を実現した。

②食事支援（こども食堂）

- ・小学生～高校生を対象に178回の食事支援（こども食堂）を実施し、他にもクリスマスイベントや子どもの日イベントなどを実施しました。
- ・食事支援ではありますが、食事提供が目的にならないように1対1の関係を重視して、スタッフの声掛けなど居場所創りを意識して実施しました。
- ・食事支援だけではなく、春休み・冬休みの昼食の配布や、さまざまな企業と連携した体験活動を実施しました。
- ・中学生9人が体験活動として実施した「泉佐野ギョーザの開発事業」は大きく地域を動かし、行政・地域を巻き込んだ活動となっています。

③体験活動

1) こどもカフェお福 wapi（不登校の子ども達の職業体験）

2023年7～9月において、不登校の子ども達が運営する「こどもカフェ お福 wapi」を開催しました。子ども達が調理・接客だけではなく、仕入れやコスト管理・売上管理まで行い、子ども達が運営するお店です。子ども達は、打合せからメニュー開発、原価計算の勉強からスタートし、合計4回の出店の利益でユニバーサルスタジオ・ジャパンに遊びに行ってきました。

また、2024年2月には日本財団主催こども WEEKEND にご招待いただき、夢であった東京出店を実現させました。

2) MORIUMIUS (こども食堂に通う子ども達の調理体験)

宮城県石巻市にある公益社団法人 MORIUMIUS 様のプログラム全 11 回に参加しました。

2 年連続となる本事業への参加でしたが、参加メンバーを変えて実施しました。

3 月には、石巻市にある MORIUMISU の現地で開催された事業に参加しました。

3) 泉佐野ギョーザの開発 (こども食堂に通う中学生たちの体験事業)

こども食堂に通う中学生 9 人が「泉佐野市を盛り上げたい!」と泉佐野ギョーザを開発する体験事業を実施しました。

7 月には、地域のお店やホテルを周り、地域にどのような活動が必要なのかをヒアリング実施しました。結果、子ども達は「空港がある泉佐野を通過点としてではなく、泉佐野市を目的に観光客に来てもらおう」と泉佐野ギョーザの開発がスタートいたしました。

半年間に渡る紆余曲折の開発過程を超えて、2024 年 3 月には泉佐野ギョーザのお披露目を開催しました。泉佐野市長 千代松大耕様より、大きな評価を得て、行政や地域を巻き込んで「ギョーザの町・泉佐野」の取り組みがスタートしました。

3 事業総括

(1) 事業の成果

- ・2023年4月1日～2024年3月31日までに平日は毎日開所し、不登校支援を行うとともに、こども食堂事業は244回開催し、延べ3401人の子ども達が参加してくれた。そのため、こども食堂の一日平均利用児童数は13.9人とすることができ、加えて日中は不登校の子ども達が10～20人参加してくれたため、合計で目標の20人を超えることができた。
- ・不登校、貧困、孤食、発達特性などさまざまな課題を抱える家庭の子ども達に対して、学校・自宅以外に「第三の居場所」を必要とする子ども達に安心して過ごせる場を提供することができた。
- ・家庭環境や新型コロナウイルスの影響で、多くの体験機会を失った子ども達にさまざまな体験活動を提供することができた。
- ・不登校の子ども達が運営するこどもカフェを7～9月で計4回、また東京出店を実現させ、子ども第三の居場所が行う体験機会を通して地域の皆様と交流機会を提供することができた。

(2) 今後の課題

- ・子ども達に対するアンケート実施については、独自の非認知能力シートを開発して実施を図ったものの、まだ実施準備段階であるためスタートまで至らなかった。

(3) 今後の取り組み

本年で最終年度となるものの、継続して不登校の子ども達の支援や貧困の子ども達への支援を実施していきたいと考える。